

NPO 被災者救援に動く

代表理事 田村 拓男



東日本大震災に対する救援活動に我がNPOは逸早く立ち上がりました。福島で活躍中の後藤礼子会員との連絡が一時取れなくなって心配しましたが、無事であることが分かりました。そして後藤さんは、既に救援活動の先頭に立って頑張っているとの報告には感動させられました。物資不足の訴えが届いてからの本部の動きは敏速・闊達。支部や本部から救援物資が頻繁に発送され始めました。音楽で結ばれている私たちですが、この国難にあたって、被災者に手を差し伸べようと立ち上がった姿は、大変頼もしく、人間性・優しさをもった人間集団なのだと思います。今回の「たより」は全国各会員からの救援活動報告と応援メッセージの特集号となりました。

NPOが企画した事業も変更を余儀なくされました。今夏も期待されていた夏の合奏講習会は一旦白紙に返し、6月19日の「ミュージックナイチンゲール・東日本大震災チャリティコンサート」としてゲストに尺八演奏家 藤原道山氏を迎えて開催することとなりました。

国の文化予算が削減傾向にあり、これまでに推進できた箏子ども教室など中止せざるを得なくなったことは残念ですが、こんな時だからこそ文化は重要です。今後も私達は学校における邦楽教育への積極的な参加を呼びかけると共に、体験教室やコンサートや合宿などで日本の将来を担う子ども達の育成を目的とした日本伝統音楽の指導を推進してゆく所存でおります。



4月5日 宮城県石巻市にて 後藤礼子会員(福島支部)撮影

被災地の皆様に謹んでお見舞い申し上げます

■言葉がない激甚。大震・大津波そして放射能の津波。被災会員に心からお見舞い申し上げます。早速お知り合いの会員から支援の手が。感謝いたします。犠牲会員がなかったこと唯一の慰め。私はあの1時間半前に赤坂のツインタワー37階で陸前高田の人と話していました。自宅・事務所・工場全てが全壊。残るは命1つ。私は渋谷で半ホームレス体験。これで新燃岳噴火は報道上突如終息。実は我が国の自然災害は引切り無し。

し。大津波の記録は「日本書紀」天武13年(684)旧10月14日宵、土佐国(高知県)で1200ヘクタールの田畑が海没。南海地震です。夕方には伊豆の2島が隆起して1つに——新島です。阪神淡路形の断層地震は同7年に豊後国日田で。多分どのメディアも知らないのか報じていません。平家滅亡150日後に東南南海地震。「平家物語」は「洪水みなぎりきたらば」と表現しています。ミュージック・ナイチンゲール……チャリティコンサートや被災地慰問のときの幕開けは「荒城の月」、ちょっと寂しいかな…。



副代表理事
西角井正大



理事 山岡 知博

■去る3月の東日本大震災は、この世でこんなにも恐ろしいことがという事を、連日テレビが見せつけている。不肖生まれて85年、この身一つ命だけ助かった昭和20年5月の東京

大空襲でも経験したことのなかった恐ろしさだ。大震災と大津波さらに人災の原発事故、神は勤勉で良識ある日本人を見捨て給うのか、重く苦しい毎日が続いている。

■3月11日。尋常でない揺れでつけたテレビ画面から飛び込んできたのは、とても現実とは思えない光景でした。整然とした耕作地や、家々を次々に飲み込む津波がまるで悪魔の手のように思えました。このたびの震災で、被害に遭われたかたがたのことを思うと、本当に居ても経っても居られない気持ちでした。何でも良いから自分で出来ることは無いのか、懸命に

考えました。近くの特養老人ホームが宮城県の特養ホームに支援を送ると聞きつけ、物資を持って駆けつけました。まだ足りません。義捐金をわずかですが送りました。突然すべてを失い、毎日大変な生活をされている境遇なのに被災された方皆さんが、とても前向きで感謝の言葉までいわれることに感銘を受けております。困ったときには「お互い様」の心です。必ず復興するまで、何らかの支援の心を持ち続けたい、と考えています。



理事 羽田野歌子

藤原道山氏からのメッセージ



尺八演奏家
藤原 道山

■この度の震災で被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。被害地となった地域にも知り合いが沢山おられ、復興に向け日夜一生懸命になっていらっしゃると思います。そんな中、私たちが出来る事は何か模索し、チャリティー公演や募金活動をして参りました。被害に遭われた方の中には楽器が破損また失われた方も多々居られると存じます。他地域

でも楽器が足りない問題は常にありますが、今、心の問題として音楽が必要になってきていると思います。被災された方に楽器とともにいい音を届ける。こんなことを考えております。

今、無理をせず、継続出来る方法で私たちが出来ることを考え行動することが大切だと思っております。

復興を祈る日々

自らが被災者でありながら1時間半もかかる道のりを車を運転して支援物資を届け、被災者を励まし勇気づけ、子供達のために教室を続けながらNPO活動をされている後藤札子さん。以前に当紙でもご紹介致しましたが、後藤さんは福島に学校の邦楽を広めようと、僻地をいとわず普及に奔走し、ようやく地域の理解が得られた矢先、まさかの大災害に遭いました。この大きな試練を何とか乗り越えてほしいとNPOの仲間達が全国からあたたかい応援を送っています。後藤札子さんの実体験レポートです。



JR貨物の壊滅写真です。中もボロボロでした



とりあえず側が残った実家
真ん中 後藤札子 右端 金沢美穂子



清優館の住所録に記入している所
納豆220食分を届けました



NPO支部の皆さんが送ってくださった服を展示している所です(順番で貰っていくそうです)



十八成の老人憩の家責任者、沼倉さん



後藤札子会員

■3月11日(金) マグニチュード9.0 震源地三陸沖、震度7が最大となる地震が発生。

ここ須賀川市も震度6強に見まわりました。この日は郡山市にある小学校の邦楽の授業を終え、午後からは教師試験を受験するためにいわき市から通って来ている生徒のお稽古があり、自宅(須賀川市)に帰ってきていました。最初はゆっくりの揺れ、それからだんだんと体が立ってられない程の強さになり、6分間の長さは次第に顔が蒼白になるほどの恐怖に変わっていききました。

午前中の授業で使った練習用のお琴と17絃が20面程立てかけてあった為、弟子と2人で両手を広げ、倒れない様に支えているのがやっとの事でした。家中の物が倒れ、お稽古中に使っていた私のお琴に次々と物が落ちてきました。もうなすすべもありません。断水が続き、物資も入ってこない日が5日程続きました。ようやく宅配便が動くようになり、物資等が入った時には、本当に我が家に光が入ったようでした。特に孫のミルクやおむつはありがたいものでした。当時は娘の家族3人、我が家が3人、そして隣で1人暮らし(ご主人は単身赴任)の先生と計7人暮らしでした。余震もひどく、その度外へ。いつ何が起こるか分からない状況なので、服を着たままだ横になり仮眠。そして体も心も疲れ始めた頃に、原発事故発生。地震で生徒の家も

崩壊という中で、この問題。二次災害です。外出は控え、換気扇は回さないように、そしてマスク着用。その内食べ物までが自粛する様にとの市の公報車が巡回しているのです。子供達のストレス、野菜農家のストレス。前と同じ生活に戻るところか、風評も加わりますます悪くなる一方。そんな中、私はすぐに教室を始めなければ子供も親もダメになると思い、いち早く普通の生活に戻すことにしました。地震で散乱した物を片づけ、大部分の物を処分してスペースも確保。最初は数人(10人ぐらい)でしたが、1週1週ごとに子供達も来るようになってきました。その中で「先生、もしかすると習字を続ける事が出来ないかもしれません」と父兄の1人。風評被害で野菜が売れず、いつも納めている所からも出荷がストップされ、この先が不安……との事。野菜農家にとっては死活問題なのです。先の事は分からないけど、まずは今ある野菜を教室で売ってみては?と提案し、その週から2家族分の野菜を教室において、桐音会で野菜の売り子に变身。教室の父兄にも協力していただき、皆で助け合っています(只今も継続中)しかし、どうしてもくい止められないのが、転出、転校(1ヶ月で10名)県内外へ出る方々は留める事が出来ず、教室事態にもその波が寄っているのです。1人1人減っていく現状に、この憤りと怒りをどこにぶつけていいの

か分かりません。そして大津波で家を失った主人の家族、石巻の大惨事をテレビで見ても驚愕しました。3つめの問題に直面。2週連続で石巻の避難所へ足を運び物資を届けました。瓦礫の山となった石巻市内。家を失った人々。もうそこはテレビで見るより、はるかに地獄絵図でした……。それでも地元の方々は明るく元気で頑張っているのです。NPOの皆さんに衣類を沢山送っていただいたおかげで大変助かりました、と現地の声。毎日続いている余震に慣れる事は決してありません。でも我が家の被害は大津波で受けた被害に比べると、まだまだ幸せな事だと思っています。私の頭も3月11日で止まっています。前の生活に戻ろうと努力しているのですが、ここ数日の余震でその決意も揺らぎ始めてしまいます。教室の生徒も減り、原発でこの場所を立ち退かないといけなくなるかもしれません。大津波で被害者となった、年老いた母と1人身の兄。

この2人のケアを二男である我が家が応援団長として頑張らなければいけない現状。そして毎日続く余震にボロボロと落ちてくる壁。今は全く先の見えない不安と闘っています。暗いニュースばかりですが、それでも必ず明るい光が差し込んでくる日を待ちながら、ペンを置きます。

福島県須賀川支部 後藤 札子 ■

東日本大震災で被災された皆様に心からお見舞い申し上げます

●熊本では昭和の大水害により阿蘇山から市の中心地を流れる「白川」が氾濫し、多くの死者を出して甚大な被害を被った経験を持っております。しかし、このたびの災害は核の恐怖まで加え、幾重にも及ぶ被害、何とも痛ましい状況の中、私達に出来る支援をと周囲の人達にも呼びかけております。少しでも早い復興を祈念申し上げます。 常務理事 古川 郁代



●東日本大震災、3.11 突然起った町の崩壊、家族との別れ……このような状況下で困難に直面しても秩序を崩さない日本人のモラルの高さが世界中で評価されています。しかし被災者の方々は忍耐強く自分自身と戦い、苦しみ乗り越えて日々を生き抜いておられます。私達一人ひとりがどんなことができるかを考え実践することが今大切だと思います。 専務理事 渡辺 泰子



●後藤先生から現地の様子を直接聞き、その惨状に胸の痛みを思いました。支援物資を集め、「一日でも早く寒さで凍える人の手に渡ってほしい」と願いながら荷造りしました。私どものネットワークは全国各地皆離れていますが、心は一つに結ばれています。音楽を通して社会貢献するという原点に戻って使命を果たしたいと思えます。 常務理事 東島 啓子



●4月17日に開催された下関三曲協会創立50周年記念大演奏会は急遽チャリティとなり、横断幕など節約出来るところは全て取り除き、募金箱を置きました。お客様が積極的にたくさんの募金をして下さり、中には韓国のお金も入っていて、世界中の人たちが応援しているのだと実感し嬉しく存じました。 理事 松崎 妙子



●東日本大震災からもう1ヶ月半近くになる。テレビでみた時被災地の姿は、これが日本かと目を疑うような悲惨さだった。地震や津波、原発事故から逃れ、夢中で過ごされたであろう時間、これから待ち受ける厳しさを思うと胸が痛む。被災地で折れたさくらが花を咲かせていた。またいつか心安らげる日が皆さんに来ると信じています。 理事 今村 慶子



●さいたま市でも福島県の大葉町から町ぐるみで多くの方が早々と避難して来られました。福島で活動していた外国人尺八、箏曲演奏家がボランティアにかけつけ心に響く音色を届けました。その行動の早さと勇気にとても感動を受けました。 理事 戸塚 順子



●ゴールの見えない3.11の悪夢……日々胸を締め衣食住満ち足りた生活に改めて考え直されている。菊池市をあげて早速支援活動をし、義援金を1億円お送りしたが、配分の遅さに苛立ちを感じている。3月27日地元の熊野座神社で奉納演奏をすることができた。「神様にも悪いことをしていない人々ばかりですどうぞご加護をください」と念じながら……。 理事 渡 雪美



●この度の災害は千年に一度のものといっても、被災者の皆さんには、なんでこの時に起きたかと怒りや悲しみをぶつける先もなく、想像を絶する状況の中で、私たちは少なくとも思いを共有し、出来ることをするというに徹したいと思えます。それは私たちの心が見えるように、思いが伝わるように行動したいと思えます。味の素スタジアムの炊き出しにも仲間と行いましたが、被災地の一刻も早い復興に少しでもかかわっていきたく思います。 理事 門傳 良男



●東日本大震災により被災されました方々に、心よりお見舞い申し上げます。避難所生活では、さぞご苦労されているものと思えます。支援物資は、法的な面から私的避難所へなかなか行き渡りにくく、生活に不自由されているものと思えます。新しい日に、少しでも楽しいことが見つけれらたと願っています。 理事 関谷 栄



●私達は余りにも強大なるものを作ってしまった。どのような道具も表とウラがあります。スコップを作った時、畑を耕すのに大変便利でした。でも人を叩いたらただの凶器、ダイナマイトも石を砕く時は便利でしたが、あんな風に使うものではなかった。同様に原発はあまりに恩恵が大きかった反面ひとたびトラブルがあると、とんでもない害をもたらすことが分かりました。今回真っ先に被害に遭われた方がお気の毒でなりません。これを単なる被害にしておくか、将来のための貴重な代償とするかは、私達の心がけひとつになるのではないのでしょうか。 理事 佐藤 義久



●3月末から英国へ旅行した時のこと、ツアーバスが交差点に停まった時、中年の男性が道路を渡る足を止めて私達のバスの車窓に向かって合掌した。私は思わず会釈をし、男性は歩いて行った。この合掌は私達日本人へ、日本の国への見舞いの気持ちである。帰国して改めて感動した。私も自分のできることを精一杯支援して行きたいと思う。 理事 石森 康雄



●江支支部 箏曲正音会代表 渡辺 正子
●今自分に出来ることは何か、些細なことでも日常的にできる事を考えるようにしています。節電は当たり前ですが、誰かの為にと思うと徹底できます。福島産の野菜・牛乳を積極的に購入し少しでも被災地の力になれたらと思います。

●加古川支部 柳の会代表 鈴木 晴柳
●「支援にご協力を…」私の手書きのチラシを持って、ご近所に走り回りました。被災者への思いのこもった品々は、次々と集まりました。どうか一刻も早く現地に届きますようにと、祈り乍ら夫と共に荷造りに励みました。

●富士宮支部 妙の会代表 佐野 妙子
●連日の報道に涙、涙、です。本当に胸が痛みます。被災者の方々の健康とご無事で一日も早い復興を願って4月24日開催予定のおさらい会をチャリティーコンサートに変更しました。被災地の方々に富士宮から温かい心を贈りたいと思えます。

●加茂支部 理音会代表 高橋 理香
●余りの災害の大きさに、悲惨さに、気持ちのやり場が無く、また復興の大変さと思うと気持ちだけがせいてしまっています。私にできることは、今まで以上に精一杯、NPOの活動を進めていくことなのだろうと思っています。

●広島支部 いちえの会代表 沖田 寛江
●この大震災は天災ですが、私にとっては人災である広島原爆の恐怖を思い起こさせました。

遠く離れた地にいる私達にも何か被災地の皆様の笑顔を取り戻すような力になることが出来ればと思っております。

●調布支部 夢の会代表 田代せつ子
●毎日テレビで見る故郷の悲惨な姿に心が痛みます。悲しみの中でも笑顔と感謝を忘れない東北の人々に感動しています。全国からのボランティアの素晴らしい活躍、日本人の底力はすごい。美しい東北は必ず新生します。頑張っています。

●新発田支部 箏曲翔の会代表 坂田 翔祐
●3月11日は新発田では震度4の揺れでした。その後被災地の様子をみますとあまりに悲惨な状況で言葉もありません。6月に華道・茶道の人とチャリティーイベントを予定していますので新発田に避難している方にも是非参加いただき元気を取り戻してほしいと思っています。

●沖縄支部 峰の会代表 下地 華峰
●謹んでお見舞い申し上げます。日本赤十字社や他の団体などを通して微力ながら義援金を託しました。被災地の皆様のご健康をお祈り申し上げますと共に亡くなられた多くの方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

●名古屋支部 箏曲明由の会代表 山本明由子
●名古屋千種区の覚王山春祭「覚王山から元気をください」で演奏し、来場されたお客様に、ステージ上に設置された募金箱に寄付していた

だけよう呼びかけました。自分のできることはわずかですが、お役にたてるよう活動が続けて行きたいと思えます。

●八王子支部 桑都の会代表 小林千恵子
●桑都の会でも被災された方が……あまりの衝撃に慰めの言葉も見つかりませんでした。夜自宅に支援物資を届けてくれたり、車で回ったり快く協力してくれた仲間たちに心から感謝するとともに、これからも日本の復興に向けて様々な支援を考えていきたいと思えます。

●北九州支部 加奈の会代表 東島 加奈
●九州で特に不自由もなく暮らしていることが申し訳ないです。せめてほんの少しでも分かち合えればと思います。北九州支部で集めた物資は、多くの方の善意がこもっています。みんなで復興をお祈りしています。

●品川支部 箏曲恭音会代表 坂本 恭子
●救援物資の活動に快く応援し汗する人の想い！「私も送り届けたい」と早速実行に移す想い！この沢山の想いが私の町で大きな輪となり震災地に繋がった様に思いました。想いは同じ日本ガンバレ「FRIEND」

●仙川支部 箏曲あさの会代表 望月亜紗子
●今回の大震災で、NPOをはじめ日本の多くの方々が救援物資を送るなど、人と人の繋がりがや見え合いがどんなに大切か思い知りました。1日も早い復興を願っております。



支援物資の数々 サンダル45足 スニーカー 10足 履物24足 紳士服上着10着 スボン12本 あったか下着15着 新しいパンツ4枚 新しいシャツ2枚 マフラー3枚 上着6着 スボン1本 スカート2枚 パン70個 缶詰15個 長靴2足 軍手24組 切り餅2袋 ビスケット10袋 チョコレート10箱 紳士靴下29足 タオル 20枚 毛布2枚 ハンドタオル5枚 ジャンパー2枚 バスマット2枚 計算機1台 バスタオル3枚 フェイスタオル6枚 ナツブザック10 ステレオラジオカセット1台 爪きりセット10個 調味料2本 ノート 袋 マスク スリッパ 文具 のり マジックペン ガムテープ シーツ コート ジャンパー セーター チョッキ ジーパン ジージャン タウンジャケット セーター スボン 冬物肌着 長靴 運動靴 スリッパ パンパースLX 紙衛生用品 出し汁 醤油 味噌 醤油 調味料 カロリーメイト キャラメル 掛・コタツ布団 毛布 ソックス 軍手 ハサミ 爪切り 歯ブラシ 肌着 紙オムツ 粉ミルク トイレットペーパー ティッシュウエットティッシュ 生理用品 洗濯石鹸 入浴石鹸 スポンジ マット お茶菓子 婦人長袖肌着 シャツ ももしき パンツ ロングコート カーディガン 紳士セーター 若者向け春夏ものブラウス 若者向けベスト・スカート 子ども服 乳児着 オーバー ジーンズ カバン ポーチ 大人用オムツ 帽子 ひざ掛け 肌着 折りたたみ傘 ベビー用品 乳製品 子ども服等たくさんの、あたたかい心のこもった支援物資は当会のネットワークを通じて瞬間に集められ、被災地の後藤札子会員によって下記の施設に届けられました。

〈送り先〉石巻市牡鹿総合支所・石巻市十八成老人憩いの家・石巻市鮎川保健福祉センター清優館

お箏屋さんからのメッセージ

山形 スミ井邦楽器店 代表 墨井富士男 0235-22-7685	被災されている皆さんが一緒に「自分だけが大変でなく、もっとそれ以上困っている人がいるんだ」という考えで心一つに繋いで頑張っておられる姿を見るにつけ、むしろ私共は感動と勇気を頂きました。我々も出来る限り応援致します。	神奈川 宮城野楽器店 代表 白澤 功 044-922-3439	東日本大震災……人は懸命に生きようと前を向きこの大困難に立ち向かっております。復興するにはあまりにも大きな困難が待ち受けておりますが何もしないでは耐えられません。日本の伝統文化が培ってきた音の響きが多少なりとも人々の心の支えになってくれば私も微力ながら「宮城野の音」をもって人々の心の支えになり、また自分に出ることで人々の支援をしていきたいと考えております。
福岡 (有) 福岡あこや 代表 橋本 潤三 092-751-3361	6年前の『福岡西方沖地震』で当店も多大な被害を受けました。そして、地震のショックとストレスが原因で母を亡くしました。直接的な被害のみならず、目には見えない心のケアをしっかりととしてあげてください。	埼玉 (株) サトウ楽器 代表 佐藤 松夫 048-754-6897	震度5強。初めて店内の琴が倒れるのを目にしました。先日、春日部駅前で義援金の募金活動に参加をし、心温かい人達の多さにすごーく感動をしています。まずは一人一人が出来る事から。今宵の晩酌は東北地方の地酒としよう!!
新潟 中嶋和楽器店 代表 中嶋 由直 025-525-7519	震災後初めて口にする花見酒、若者達が力強く打つ太鼓の響、明るい笑顔、中には涙ぐむ方も。先日のニュース映像を見て思いました。大丈夫、しっかり地域の伝統の技と心を受け継いだ若者達がいてくれるじゃないですかと。私達も、被災地の方々に寄り添って、しっかり応援して行きます。	山梨 山形屋琴三絃店 代表 日原 仁 055-252-2110	全国各地に地震が原因で多数の方が避難なさっています。生活用品の持ち出しが優先し、楽器は自宅に残したまま、しかし避難先が公営住宅等で一応安定し、箏・三味線など弾きたいときは「全国邦楽器商工業組合連合会「全邦連」HPにアクセスしてください。全国の「お店紹介」で要望を受けています。
東京 (有) 明鏡和楽器 代表 渡辺 譲 03-3623-6349	千年に一度起きるといわれた大地震がまさに今世紀に遭遇してしまいました。岩手県にある当社の取引先の店舗が3軒も壊滅と化してしまいました。幸い命は助かりましたが今後再び営業出来る状態ではありません。しかし再開を願う気持ちは皆さん共通だと思います。私共も共に頑張りたいと思います。	兵庫 アコヤ楽器 代表 安藤 克彦 079-422-2478	被災された東北地方の皆様は心からお見舞い申し上げます。今、日本が試されている時期がきていると感じています。心を豊かにすることも必要です。音楽に触れて少しでも日本が元気・笑顔になることを願っております。

いつもNPOをご支援いただき誠にありがとうございます。NPO法人邦楽指導者ネットワーク21事務局でTEL&FAX 03-5771-8128